

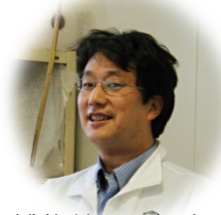
甲南プレミア2nd 「博学プロジェクト」キックオフ講演会
甲南大学理工学部生物学科2015年度コロキウム

生物多様性の保全と自然史博物館



主催：甲南大学理工学部生物学科
共催：甲南大学文学部人間科学科・歴史文化学科
甲南大学統合ニューロバイオロジー研究所

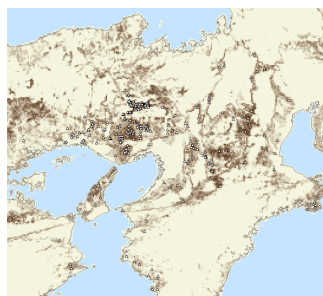
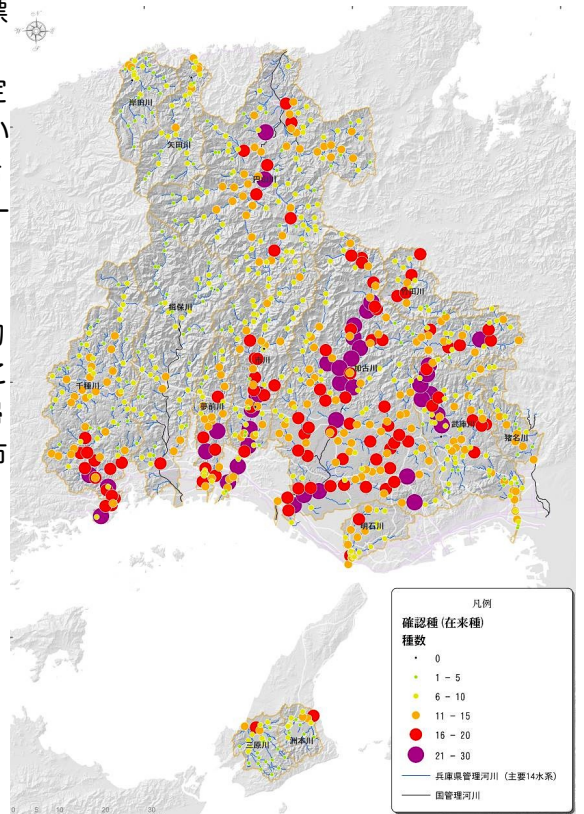
2016年
1/12 (火)
16:00-17:00
甲南大学 8-23室



講師 三橋 弘宗 先生

(兵庫県立人と自然の博物館, 兵庫県立大学)

博物館は、標本を収蔵し、展示するだけでなく、最新の分析技術やビッグデータを研究に活用している。例えば、絶滅危惧種の古い標本から取り出した遺伝情報を分析することにより絶滅要因を推定する他、過去の生息情報のデータベース化により生息可能な地域を推定し、自然再生や気候変動に対する応答を研究することに応用されている。こうした研究を支えるベースとなる博物館の役割として、研究活動はもちろん、世界規模での生物多様性情報に関する基盤データベースの構築、地域の小さな博物館や市民、学校などを通じた資料の収集と整備、観察会等を通じた市民科学者の育成や活躍の場や交流場をつくることなど、幅広い活動によって維持されている。また、生物多様性情報の分析を通じて、行政施策への援用事例も増えている。このセミナーでは、兵庫県ローカルな例として、コウノトリの野生復帰における自然再生事業の展開などを例として、博物館の情報活用や市民参加の推進、展示や社会教育活動との連携について紹介します。



連絡先: 武田鋼二郎 (生物学科) Tel: 078-435-2516、e-mail: takeda@center.konan-u.ac.jp